

新 NATO 事務総長イエンス・ストルテンベルグの対ロ姿勢

—注目される穏健的新事務総長の手腕—

By 三井光夫 (ロシア安全保障・軍事問題アナリスト)

主要点

10月1日に新しい NATO 事務総長に就任した、ノルウェー前首相のイエンス・ストルテンベルグは同日記者会見を行った。その発言に関する日本の多くの報道ぶりは、冒頭で「ウクライナ情勢を巡って、ロシアが NATO に大きな脅威を与えているとして、その対応に力を入れる考えを強調した」と伝えた NHK (10月2日) のように、幾分対ロシアの強硬な面を強調する報道ぶりになっている。

ところが AP 通信は「できるだけロシアと良好な関係を目指す新 NATO 首班」と題し、その冒頭で、「NATO の新しい事務総長は1日、今日、モスクワと西側との改善された関係に向けて機会が生じていると述べ、ロシアに関し一層和解的な態度を示した」とソフトな面を強調する報道ぶりとなっている。

このように発言の捉え方(力点の置き方)に差異もみられる。

1 新 NATO 事務総長イエンス・ストルテンベルグの初の記者会見

新事務総長の記者会見での実際の発言(ロシア関連部分)は次のとおり。

- ① NATO を取り巻く安全保障情勢に変化をもたらしている要因は、東方ウクライナでのロシアの国際法違反の継続と南方でのテロリスト集団 ISIL (イスラム国)
- ② これらが NATO にとって挑戦で、この挑戦に対して3つの課題(強い NATO、NATO 周辺の安定、欧米の強固な結び付き)が新 NATO 事務総長に課せられている。
- ③ (東部での挑戦に対して、) NATO は東部の継続的プレゼンスと活動を継続する。
- ④ (ウェールズ・NATO サミットで即応部隊の創設が決められたが) 2月の国防相会議で、同部隊の構想、編成、及び規模の骨格が定まるよう求めていく。
- ⑤ ウクライナ危機は NATO に対する主要な挑戦であるが、NATO はロシアとの対決を求めている。しかし、NATO の安全保障の支えである原則で妥協はあり得ないし、妥協はしない。

⑥ウクライナ支援では4つの分野（サイバー、兵站、指揮統制、及び負傷兵のリハビリ）で支援する。

⑦「強い NATO」と「ロシアとの建設的關係構築のための我々の継続する努力」との間にまったく矛盾はない。強い NATO のみが欧州—大西洋の安全保障のためにそのような關係を構築することができる。

⑧NATO は価値の同盟であり家族である。東欧から米国の西側海岸まで伸びている。

⑨地上の情勢を把握するために、我が同盟国の東部および南部を訪問する。今後数日後に、ポーランドとトルコを最初に訪問する。

⑩記者との質疑応答

その後の記者との質疑応答では、「ロシアは敵と認識するか、プーチンとの良い關係は役立つか?」、「ロシア外務次官は NATO-ロシア理事会招集を検討すると述べているが、早期の招集を望むか?」、「反 NATO の運動者から、NATO の指導者になった、遍歴を説明されたい」「前事務総長ラスムセンと、どんな違いが?」「ロシアとの關係を新たにするには、何を必要とするか?」「NATO の加盟国ではないスウェーデンやフィンランドの政治指導者に対するメッセージは?」、そして「リトアニアの漁船がロシア当局に拿捕され、エストニアの国境管理員がロシア当局に誘拐された時、バルト諸国にロシア機が侵入。これをハイブリッド戦争とみなすか?」の鋭い質問があり、興味深い回答がなされた。

2 若干のコメント

(1) ストルテンベルグ事務総長の発言の中で、ロシア関連の発言を特に抽出すると、ロシアに対して一見強硬な姿勢を継続する指導者のようにもみえる。

(2) しかし、AP 通信は、新事務総長は、前に述べたように対口關係改善に意欲を見せている指導者という面を強調している。そして、発言のほかに、彼の人物像を次のように紹介している。

- ・彼の合意形成スタイルは前任者よりも（対口交渉で）柔軟性を増す
- ・3月、満場一致で選ばれたが、ロシア大統領プーチンから暫定的に承認されたとすれば、その交代は良かったことになる。プーチンとは彼がノルウェーの中道左派政權を率いていた時、交流があった。

- ・ロシアと国境を接する同盟国出身の初の事務総長である。
- ・2005年から2013年までのノルウェーの首相としての二期の間に軍事費を増加
- ・長年、信頼できる米国の同盟者

(3) シュトルテンベルクが中道左派労働党出身でありながらも穩健思想を持っている背景には、彼の出身の良さが影響しているのかもしれない。名門政治一家としての毛並みの良さがある。

(4) ロシア大統領プーチンとは、ノルウェーとロシアとの間で、長年、懸案であったバレンツ海と北極海の係争海域の帰属確定で交渉し、2010年4月、遂に合意するに至った仲（貴重な経験）。

(5) NATO とロシアの関係が冷え込んでいるこの時期に、NATO の新事務総長としては最適の人物が就任したと言えるのではなかろうか。

(6) とはいえプーチン・ロシアを評価する？シュトルテンベルク新事務総長であったとしても、当面、これまでに定められた NATO の路線を急激に変えることはできない。即応部隊の創設、東部における警戒措置、そしてウクライナ支援など、NATO がこれまでに定めた路線は、やはりモスクワを刺激し続けるだろう。

(7) (本レポート作成者の) 筆者は、特にシュトルテンベルク新事務総長が「NATO は価値の同盟であり家族である。NATO は東欧から米国の西側海岸まで伸びている」とサラット述べたところが、実はロシアにとって最大の問題点になる箇所ではないかとみている。NATO が東方進出を今後も継続することを示唆（予告）したことになっているからである。その行動（NATO の東方拡大）こそ、モスクワが最も懸念している行動である。

ロシアからすれば、「ロシアが NATO に大きな脅威を与えている」のではなく、まさに「NATO がロシアに大きな脅威を与えている」ということになるだろう。

(8) 結局、こうしてみると NATO とロシアの冷戦は容易に終わりそうにない。これは特に注意を要する。

そうした厳しい展望が予想されるなかで、そうであればあるほど、今後、様々な面で和解放的な態度を示す穏健派的シュトルテンベルク新事務総長の手腕が問われることになるだろう。

今日、ウクライナ危機を引き金としてロシアと NATO は、冷戦後、かつてない緊張した冷たい関係となっている。この情勢下、10月1日に新しい NATO 事務総長として、イエンス・ストルテンベルグ・ノルウェー前首相が就任した。

NATO はこれに先立ちウェールズ・サミットで即応活動計画を採択するなど、NATO の進むべきベクトルは定められており、ストルテンベルグ新事務総長の就任によって、NATO のベクトルが当面大きく変わるわけではない。しかし、ストルテンベルグ新事務総長の就任は、NATO 加盟国 28 か国の代表として、今後、同盟の様々な問題解決に大きな影響力を及ぼすことも事実である。したがって新事務総長の対ロシア観を承知することは、今後の、ATO とロシアの関係を占ううえでも重要である。



NATO 新事務総長イエンス・ストルテンベルグ

ところでこの新 ATO 事務総長イエンス・ストルテンベルグは、その職務に就任した 10 月 1 日に記者会見を行い、抱負を述べている。この記者会見での発言は、翌 2 日、国内外の報道によって報じられた。

日本の多くの報道ぶりは、「ウクライナ情勢を巡って、ロシアが NATO に大きな脅威を与えているとして、その対応に力を入れる考えを強調した」と伝えた NHK (10 月 2 日) のように、幾分ストルテンベルグ新 NATO 事務総長の対ロシアの強硬な面を強調する報道ぶりになっている。

ところが AP 通信は、「できるだけロシアと良好な関係を目指す新 NATO 首班」と題し、その冒頭で、「NATO の新しい事務総長は 1 日、今日、モスクワと西側との改善された関係に向けた機会が生じていると述べ、ロシアに関し一層和解的な態度を示した」と報じた。そして、「アナリスト達は前任者アナス・フォー・ラスムセンに比して新事務総長はロシアに対し、より柔軟な姿勢で臨むだろうと予言している」とソフトな面を強調する報道ぶりとなっている。

国内外の報道では、発言の捉え方（力点の置き方）に差異もみられる。

そこで、本レポートではあらためて新 ATO 事務総長イエンス・ストルテンベルグの記者会見の内容（特にロシア関係部分）を概観し、その主要点を抽出し、若干の評価を付け加え、新 NATO 事務総長ストルテンベルグの対ロシア観の分析を試みたい。

1 新 NATO 事務総長イエンス・ストルテンベルグの初の記者会見

（1）記者会見での発言（「ロシア関連部分」）の概要

新 ATO 事務総長イエンス・ストルテンベルグの 1 日の記者会見での発言の概要、特にロシア関連部分は「別紙 1」のとおりである。

別紙 1 「新 ATO 事務総長イエンス・ストルテンベルグの初の記者会見（「ロシア関連部分」）（概要）」

（2）主要点

その発言の主要点を抽出すると次のとおりである。

① NATO を取り巻く安全保障情勢に変化をもたらしている要因は、東方ウクライナでのロシアの国際法違反の継続と南方でのテロリスト集団 ISIL（イスラム国）である。

② これらが NATO にとって挑戦で、この挑戦に対して 3 つの課題が新 ATO 事務総長に課せられている。

- ・強い NATO を維持すること
- ・パートナーと共に働くことによって、我々の隣接の安定を維持すること
- ・欧州と北米の間の結び付きを強固に維持すること

③（東部での挑戦に対して、）NATO は東部の継続的プレゼンスと活動を継続する。その具体的な活動は次の通り、

- ・バルト海上空の NATO の空中パトロール
- ・バルト海および黒海に海軍の配置
- ・これに関係する部隊はローテーションで実施

④（ウェールズ・NATO サミットで即応部隊の創設が決められたが）2 月の国防相会議で、同部隊の構想、編成、及び規模の骨格が定まるよう求めていく。

⑤ウクライナ危機は NATO に対する主要な挑戦であるが、NATO は、(やみくもに) ロシアとの対決を求めている。がしかし、NATO の安全保障の支えである原則で妥協はあり得ないし妥協はしない。この考えの下、

- ・ウクライナの支援は継続する。
- ・ロシアに関しては、同国の諸活動における明瞭な変化（国際法遵守への変化、国際義務や責任を示す変化）を見守る。

⑥ウクライナ支援では

- ・4つの分野—サイバー、兵站、指揮統制、及び負傷兵のリハビリ—で支援
- ・このため、NATO は信託基金を実施

⑦「強い NATO」と「ロシアとの建設的關係構築のための我々の継続する努力」との間に、まったく矛盾はない。強い NATO のみが欧州—大西洋の安全保障のためにそのような関係を構築することができる。

⑧NATO は価値の同盟であり家族である。東欧から米国の西側海岸まで伸びている。

⑨地上の情勢を把握するために、我が同盟国の東部および南部を訪問する。今後数日後に、ポーランドとトルコを最初に訪問する。

⑩以上の考えを記者団に述べた後、記者と質疑応答を実施。記者の質問に対する回答から見えるストルテンベルグの考え方は次のとおりである。

記者の質問	新事務総長ストルテンベルグの回答
AP 通信 前任者は、ロシアは NATO の敵のようだと述べていたが、同意するか。 また、プーチン大統領は、あなたと楽しい経験をしたと述べたが、その良い関係は事態を変えるのに役立つか？	NATO 全首脳は、ロシアが国家の義務や国際法に違反していると認めた。我々はロシアが国際法と国際義務を順守する立場に戻るのを見なければならない。 しかし、ロシアと建設的かつ協力的関係のために何年もの間行ってきたように、私の主なメッセージは、これから先も、ロシアと建設的関係を目指すことを望んでいること、同時に、強い NATO を目指すとの間には、全く矛盾はないというものであった。
ノルウェー報道機関 NTB	招集の具合的な要請は全くない。しかし、

<p>ロシア外務次官は、ロシアは NATO 指導部の交代後、NATO-ロシア理事会を招集することを検討してもよいと述べているが、あなたは早期の理事会招集を望むか？</p>	<p>要求があれば、それを検討する。</p> <p>次のことも強調したい。我々が行ったのは、政治的に具体的な協力と軍事協力を、一時停止したということである。しかし、政治的コンタクトのチャンネルは開かれている。我々は政治チャンネルを通じて政治的コンタクトを取り続けると述べてきている。</p>
<p>アルジャジーラ</p> <p>70年代及び80年代の反 NATO の運動者から、NATO の指導者になった、あなたの遍歴を説明されたい。</p>	<p>私は常に平和を支持していた。私は強いノルウェー防衛の強い支持者だった。私が労働党党首であった時、反 NATO の国家から NATO を支持する国家に変えることができた。それは、ロシアと国境を持つ小国のような我々が、ロシアと関係を持つことができる方法は、同盟の一員になり、強い防衛を持つことによってであると信じているからだ。</p>
<p>デンマーク TV</p> <p>前事務総長ラスムセンと、どんなやり方で異なる事務総長になるのか？対話でもっとソフトになるのか？</p>	<p>我々は長年一緒に働いた。私の最大の責任は全 28 か国に役立つこと、そして 28 か国を代表して正しい政策のために解決策を見いだすことができることである。それは前事務総長ラスムセンの課題でもあった。そのように、我々は基本的に同じ政策と同じ諸国家を代表している。</p>
<p>国营ラジオ・CBS ニュース</p> <p>ロシアとの関係を新たにするには、何を必要とするか？クリミアはウクライナの統制下に戻らなければならないか？</p>	<p>ロシアの活動の変化を見る必要がある。また我々は今、ウクライナ東部で成立した停戦において、一つの機会を見ていることを強調したい。しかし、停戦違反があり、停戦は脆い状態になっているということはお承知のとおり。</p>
<p>フィンランドのメディア記者（女性）</p> <p>NATO に近いが NATO の加盟国ではないスウェーデンやフィンランドの政治指導者に対するあなたのメッセージはどのようなものか？</p>	<p>まずはフィンランドとスウェーデンとの緊密な仕事ができることに非常に感謝しているというメッセージである。</p> <p>両国は緊密なパートナーである。</p> <p>両国とはたった今、さらに緊密な協力を可能にするホスト国の協定に調印した。</p> <p>両国の加盟問題の決定は、両国の人々に</p>

	<p>委ねたい。私が介入すると問題を引き起こすだけで、それは私が望むところではない。</p>
<p>デイリー毎日新聞（斎藤記者）</p> <p>「ハイブリッド戦争」について尋ねる。</p> <p>最近、リトアニアの漁船がロシア当局に拿捕され、また、エストニアの国境管理員がロシア当局に誘拐された。その時、ロシアがバルト諸国の空域に侵入した。これをハイブリッド戦争とみなすか？ハイブリッド戦争に、どのような備えをしているか？</p>	<p>ウェールズ（NATO サミット）からの主なメッセージの1つは、我々は NATO 周辺の変化する安全保障環境に対応しているということだ。それが、即応活動計画を実施する理由である。それは南部においても又東部においてもあらゆる脅威の種類に応答する NATO の能力を増大する。それはハイブリッド戦争の考えによって引き起こされた脅威に対する我々の応答能力を高めることにもなる。</p> <p>リトアニアの船に関する特殊な問題は国家の問題である。</p>

2 若干のコメント

若干のコメントを付け加えると次のとおりである。

(1) ストルテンベルグ事務総長の発言の中で、ロシア関連の発言を特に抽出すると、次の通りであり（表1）、こうした発言からは、ロシアに対し強硬な一面もみられる。

表1 ロシア関係のみ抽出：

①NATO 周辺の安全保障情勢に変化をもたらしている要因の一つは、東方ウクライナでのロシアの国際法違反の継続である。

②ロシアが（イスラム国とともに）NATO にとっての主たる挑戦者で、NATO にとって3つの課題を生じさせている（強い NATO を維持、パートナーと共に安定を維持、欧米との強固な結び付き）。

③ロシアの挑戦に対し、NATO は東部の継続的プレゼンスと活動を継続

④即応部隊の創設

⑤ウクライナ支援は完全に継続

⑥ロシアとの関係では強い NATO が必要

⑦ NATO は東欧から米国の西側海岸まで包含

(2) しかし、AP 通信は、新事務総長は、前に述べたように「今日、モスクワと西側との改善された関係に向けて機会があると述べ、ロシアに関し一層和解的な態度を示した。」と報道し、厳しい対ロ姿勢を取りながらも、対ロ関係改善に意欲を見せている指導者という面を強調している。

この視点から、AP 通信は、シュトルテンベルクの記者会見の発言のうち、次のように報じている。

別紙2 「AP 通信：『新 NATO 首班；できるだけロシアと良好な関係を』（概要）」

①「強い NATO を求める願望と、ロシアとのよりよいつながりを求めることの間には「いかなる矛盾もない」、

②モスクワが国際法を守り、そしてウクライナに対するロシアの諸活動に「明らかな変化」があることが必要、

③ロシアが事実上機能していない NATO-ロシア理事会を復活させようと求めるなら、NATO は「偏見なしに」対応する、

④彼の 3 つの優先事項は NATO を強くすること、パートナー達と共に働き我々の隣接地を安定化させること、そして欧州と北米を固く結びつけることである、

⑤NATO はその東の辺境の警戒をゆるめないと約束し「我々は我々のコミットメントを支持し、我々の同盟国を守るだろう」、

⑥来る 2 月、「即応部隊」の規模と編成について合意すべきだ。

この他、AP 通信は同事務総長の人物像を次のように紹介している。

①アナリスト達は、彼の合意形成スタイルは、彼の前任者(デンマークのアナ

ス・フォー・ラスムセン)より柔軟さを表すだろうと予言した。

②シュトルテンベルクは3月、満場一致で選ばれたが、ロシア大統領プーチンから暫定的に承認されたとすれば、その交代は良かったことになる。プーチンはシュトルテンベルクがノルウェーの中道左派政権を率いていた時、彼と交流があった。

③同新事務総長はロシアと国境を接する同盟国出身の初の事務総長である。

④シュトルテンベルクは、2005年から2013年までのノルウェーの首相としての二期の間に軍事費の増加を押し通した。

⑤シュトルテンベルクは長年、信頼できる米国の同盟者である。

(3) ロシアを“敵”と呼称してはばからなかった前事務総長ラスムセンが強硬派的事務総長だとすれば、前に述べたように「ロシアがNATO-ロシア理事会の復活を求めるなら、“偏見なしに”対応する」という姿勢を見せるシュトルテンベルク新事務総長は確かに穏健派的事務総長だといえるだろう。

(4) シュトルテンベルクが中道左派労働党出身でありながらも穏健思想を持っている背景には、彼の出身の良さが影響しているのかもしれない。彼の母はノルウェーの国務長官を、父は外務大臣を各々勤めた名門政治一家としての毛並みの良さがある。

(5) また、ロシア大統領プーチンとは、長年、ノルウェーとロシアとの間の懸案であったバレンツ海と北極海の係争海域の帰属確定で交渉し、2010年4月、遂に合意するに至った仲である。それゆえ、プーチンは「彼は信頼できる」と評価しているが、恐らく、シュトルテンベルクもまたこの経験から、プーチンは信頼できると評価しているに違いない。

(6) ウクライナ危機が引き金となって、かつてないNATOとロシアの関係は冷え込んでいる。

そうしたなかで、これまでのロシアとの関係からすると、シュトルテンベルクほど、この時期にNATO事務総長として適した人物は見当たらないと言っても過言ではないのではないのか。NATOの新事務総長として最適の人物が就任し

たと言えるだろう。

(7) とはいえプーチン・ロシアを評価する？シュトルテンベルク新事務総長であったとしても、当面、これまでに定められた NATO の路線を急激に変えることはできない。したがって、即応部隊の創設、東部における警戒措置、そしてウクライナ支援など、NATO がこれまでに定めた路線の実施は、やはりモスクワを刺激し続けるだろう。

(本レポート作成者の)筆者は、特にシュトルテンベルク新事務総長が「NATO は価値の同盟であり家族である。NATO は東欧から米国の西側海岸まで伸びている」とサラット述べたところが、実はロシアにとって最大の問題点になる箇所ではないかとみている。それは明らかに NATO が東方進出を今後も継続することを示唆（予告）したことになっているからである。その行動こそ、モスクワが最も懸念している NATO の行動（NATO の東方拡大）である。ロシアからすれば、「ロシアが NATO に大きな脅威を与えている」のではなく、まさに「NATO がロシアに大きな脅威を与えている」ということになるだろう。

(8) 結局、こうしてみると NATO とロシアの冷戦は容易に終わりそうにない。これは特に注意を要する

シュトルテンベルク新事務総長の記者会見での発言は、遺憾ながらそれを予言するものであったともいえる。

そうした厳しい展望が予想されるなかで、そうであればあるほど、今後、様々な面で和解的な態度を示す穏健派的シュトルテンベルク新事務総長の手腕が問われることになるだろう。

欧州でのロシアと欧米社会の対立は第三次世界大戦をも引き起こしかねないところから、新事務総長の手腕を大いに注目して見守りたい。

NATO 公式ホームページ
2014 年 10 月 2 日掲載（仮訳）

新 ATO 事務総長イエンス・ストルテンベルグの初の記者会見 （「ロシア関連部分」）（概要）

私は本日ここで諸君全員にお会いできて嬉しい。

（略）

今朝、私は初の NATO 理事会の会議を主催した。我々は我々を取り巻く変化した安全保障の情勢を再検討した。

東方に対しては、ウクライナでの停戦が一つの機会を提供している。しかし、ロシアはウクライナを不安定化させる能力を維持している。そして、ロシアは国際法違反を継続している。

南方に対しては、不安定さが我々の近隣地域で拡大している。NATO 同盟国や地域のパートナーを含む国際的連帯が、テロリスト集団 ISIL（イスラム国）に対する断固とした行動を取っている。

我々はイラクの自国防衛能力を強化する活動を支援する。そして、我々のパトリオット配置は我々の同盟国トルコの防空に寄与している。こうした挑戦が、何故 NATO が必要かの理由を明らかにしている。

したがって、私が就任した時、これらは、私の 3 つの優先課題である。強い NATO を維持すること。パートナーと共に働くことによって、我々の隣接の安定を維持すること。そして欧州と北米の間の結び付きを岩のように強固に維持することである。

（略）

我々はローテーションを基盤として、同盟の東部の継続的プレゼンスと活動を継続する。バルト海上空の NATO の空中パトロールは継続する。バルト海および黒海に海軍の配置を継続する。そして、部隊のローテーションを継続する。必要な限り継続するだろう。

我々の軍司令官達は即応部隊を作りつつある。その我が部隊は数日内で展開できるように準備する。NATO はいかなる侵略も断固阻止すると決定していることを示すためである。

2 月に、私はその部隊の構想、編成、及び規模について合意することを NATO の国防相に期待している。事務総長として私は、全ての同盟国と緊密に関わり合うつもりである。私は、地上の情勢を把握するために、我が同盟国の東部および南部を訪問する予定だ。

また、今後数日後に、私は、ポーランドとトルコに最初の訪問を行うことを計画している。

ロシアの軍事介入によって引き起こされたウクライナ危機は、欧州―大西洋の安全保障に対する主な挑戦である。ウェールズ・サミットは我々の明瞭な立場を示している。NATOは、ロシアとの対決を求めている。しかし、我々は我々の同盟、そして欧州と北米の安全保障の支えである原則で妥協はあり得ないし、妥協はしない。

我々は、独立、主権、及び安定したウクライナのために、完全な支持を継続するだろう。欧州の国々は自らの方向を自由に決められなければならない。また、我々は、ロシアの諸活動において、明瞭な変化を見る必要がある。国際法を遵守しているということを示す変化である。そして、ロシアの国際義務や責任を示す変化である。

したがってはっきりさせておこう。私は強い NATO とロシアとの建設的關係構築のための我々の継続する努力との間に、まったく矛盾はないと考えている。強い NATO のみが欧州―大西洋の安全保障のためにそのような関係を構築することができるのだ。

強い NATO は、行動する NATO でもある。世界中の安定を築くために、パートナー達と共に働いている。

(略)

私は、12月の外相会談までに、パートナー達と我々の関係の具体的な進展を見ることを期待している。

我々は、4つの分野―サイバー、兵站、指揮統制、及び負傷兵のリハビリ―で、ウクライナを支援するため、NATO の信託基金の実施を開始するだろう。そして、我々は、訓練施設を含めてグルジアに重要なパッケージを適所に保有するだろう。

(略)

我々の同盟は価値の同盟であり家族である。東欧から米国の西側海岸まで伸びている。約10億人の人々を護っている。

私は NATO 旗の下で勤務しているあらゆる制服を着た全ての男性、女性に感謝と尊敬の念を表す。我々はともに価値を擁護するだろう。我々は我々の諸国家を安全に保つだろう。そして、我々は NATO をこの予測不可能な世界の安定と根本的な源泉として維持するだろう。

さてこれで、私は喜んで（※記者の）あなた方の質問をお受けする。

質問：AP 通信記者（記者名略、以下同様）

あなたの前任者は、ロシアは最早、NATO のパートナーのような行動をせず、NATO の敵のようだとしばしば述べていました。次のことはどうなのでしょう。「あなたは今日その職務を引き継ぎましたが、その意見に同意しますか？また、ロシア大統領ウラジーミル・プーチンは、彼はあなたと楽しい経験をしたと述べましたが、その良い関係はバランスを変えるのに役立ち得ますか、…すなわち事態を変えるのに役立つ可能性があると考えますか？或いはそれはあまりにも遅すぎますか？」

イエンス・ストルテンベルグ：

ウェールズの NATO サミットでの全首脳は、ロシアが国家の義務や国際法に違反していると認め、それを明確にした。したがって、我々はロシアがその振る舞いやその活動を変え、そして国際法と国際義務を順守する立場に戻るのを見なければならぬということをも本日繰り返した。

しかし、ロシアと建設的かつ協力的関係のために何年もの間行ってきたように、我々はそれをまだ熱望していることを、ウェールズ・サミットでは強調もしている。それで、私の主なメッセージは、今日もそしてこれから先も、ロシアと建設的関係を目指すことを望んでいるのと同時に、強い NATO を目指すのとの間には、全く矛盾はないというものであった。実際に私は、軍事同盟としてまた政治同盟として強い NATO は、再びロシアと建設的関係を確立する前提条件であり、かつ最善の方法だと思っている。

質問：ノルウェー報道機関 NTB.

ロシア外務次官アレクサンドル・ヤコヴェンコは RT 報道の中で、ロシアは NATO 指導部の交代後、NATO-ロシア理事会を招集することを検討してもよいと述べています。あなたは早期にその理事会を招集したいですか？

イエンス・ストルテンベルグ：

NATO-ロシア理事会招集の具合的な要請は全くない。しかし、もしそのような要求がなされるならば、勿論、我々は幅広い心でそれを検討するだろう。そして私は同時に、ウクライナ危機が始まって以降、その理事会で少なくとも 2 つの会議が行われていることを付け加えておきたい。さらに次のことも強調したい。我々が行ったのは、NATO とロシア間の具体的な協力、すなわち政治的に具体的な協力と軍事協力を、一時停止したということである。しかし、我々は政治的コンタクトのチャンネルは開かれているということを強調し、そして維持してきた。そのことは完全に NATO がその危機が勃発して以降、たとえ具体的な協力の停止が行われ、継続されたとしても、我々は政治チャンネルを通じて政治的コンタクトを取り続けると述べてきたことと合致している。

質問：アルジャジーラ

70年代及び80年代の平和主義、反戦、反NATOの運動者から、著しい転向者に見えるこの軍事同盟の指導者になった、あなたの遍歴を説明されたい。

イエンス・ストルテンベルグ：

まず第一に、私は常に平和を支持していた。次に、私は常に――、私の全政治人生で、私は強いノルウェーの防衛の強い支持者だった。そして、実際に、私が若い労働党の党首であった時、私は反NATOの国家からNATOを支持する国家に変えることができた。したがって、私がしたほどNATOのために懸命に闘ってきたノルウェーの政治家を見つけることは殆ど出来ないだろう。それゆえ、NATOは、私の長い政治生活で私がまさに支持する態度を取ってきたものに合致していると考えます。それは、ロシアと国境を持つ小国のような我々の方法は…、我々がロシアと関係を持つことができる方法は、同盟の一員になり、強い防衛を持つことによってであると私が信じているということである。そしてそれは私…、またノルウェーが我々を、NATO事務総長を、支持しようとしているところのものである。

質問：デンマーク TV

事務総長、あなたは前事務総長アナス・フォー・ラスムセンとどんなやり方で異なる事務総長になるのでしょうか？あなたは別なスタイルがありますか？あなたは対話でもっとソフトになるのでしょうか？

イエンス・ストルテンベルグ：

私は、アナス・フォー・ラスムセンを非常に尊敬している。我々は長年一緒に働いた。しかし、彼と私の二人とも、28カ国を代表している。我々は…、彼は事務総長であった。私は28の同盟国によって採択された決定を実行する責任のある事務総長である。私の最大の責任は全28カ国に役立つこと、そして28カ国を代表して正しい政策のために解決策を見いだすことができることである。それはアナス・フォー・ラスムセンの課題であったし、それは私の課題でもある。そのように、我々は基本的に同じ政策と同じ諸国家を代表している。

(略)

質問：国営ラジオ・CBS ニュース

ロシアとの関係を新にするには、何を必要とするのでしょうか？あなたの心中では、クリミアはウクライナの統制下に戻らなければなりませんか？

(略)

イエンス・ストルテンベルグ:

我々が見る必要があるものはロシアの活動での変化である。国際法を遵守していることを証明する変化を我々が見なければならないということである。そして、我々は彼らが国際的な義務と責任を尊重していることを証明するロシアの諸行動の変化を見なければならない。そしてまた我々は今、ウクライナ東部で成立した停戦において、一つの機会を見ていることを非常に強調したい。しかし、停戦違反があり、停戦は脆い状態になっているということをご承知のとおりである。

(略)

質問：フィンランドのメディア記者（女性）

現実に NATO に近いけれども NATO の加盟国ではない国々があります。スウェーデンやフィンランドのことです。これらの国々の政治指導者に対するあなたのメッセージはどのようなものでしょうか？

イエンス・ストルテンベルグ:

まず第一に、我々はフィンランドとスウェーデンとの緊密な仕事ができることに非常に感謝しているという私のメッセージである。両国は緊密なパートナーである。両国は我々の作戦の幾つかに参加している。両国はアフガニスタンに参加している。そして、両国は多くの他の分野で NATO と共に緊密に働いている。

そして、我々はフィンランドとスウェーデンとたった今、協定、すなわちさらに緊密な協力を我々に可能にするホスト国の協定に調印した。それゆえ私は NATO のパートナーとして、フィンランドとスウェーデンとの協力を歓迎する。そして、我々はそれを拡大し、頼りにしたい。両国の加盟問題の決定は、スウェーデンとフィンランドの人々にそれを委ねたい。私はその議論に介入し始めると、問題を引き起こすだけだと思う。それは私が望むところではない。私は、少なくともノルウェー人として、決して、いかなるスウェーデンおよびフィンランドの国内政治について、言うべきではないと考える。(群衆、笑い)

(略)

質問：デイリー毎日新聞（斎藤記者）

私は「ハイブリッド戦争」をお尋ねします。サミットがハイブリッド戦争を効果的に行うことを決定し、そして、最近、リトアニアの漁船がロシア当局に拿捕され、また、エストニアの国境管理員がロシア当局に誘拐されました。その時、ロシアがバルト諸国の空域に侵入しました。あなたは、これをハイブリッド戦争の特徴と同様の一種の軍事圧力としてみなしていますか？そのようなハイブリッド戦争に対し、どのような備えをしていますか？

か？

イエンス・ストルテンベルグ:

ウェールズからの主なメッセージの1つは、我々は NATO 周辺の変化する安全保障環境に対応しているということである。そしてそれが、我々が即応活動計画を実施しつつある理由である。即応活動計画の主な目的の一つは、我々の部隊の準備を一層整えさせ、短期間で展開することができるようにすることである。そしてそれは我々の軍事能力を増すことでもある。そして、それは南部においても又東部においてあらゆる脅威の種類に応答する NATO の能力を増大するだろう。そしてそれはハイブリッド戦争の考えによって引き起こされた脅威に対する我々の回答能力を高めることにもなる。

リトアニアの船に関する特殊な問題に触れると、それは国家の問題である。そして、その問題を解決するなんらかの責任を負うようにという NATO に対する要請は全くない。そして、私は EU が関わっているということを承知している。それで公平に言って、我々は全ての同盟国を守っていると、私は言うことができる。それは NATO の根本理念である。

そして我々は、変化する安全保障の風景の中で、即応活動計画を実施することによって、そうする（※全同盟国を守る）我々の能力を高めている。

(略)

司会者：

大変ありがとうございました。時間が参りましたので終わります。

Associated Press
2014 年 10 月 1 日掲載 (仮訳)

「新 NATO 首班 ; できるだけロシアと良好な関係を」 (概要)

By JOHN·THOR DAHLBURG

NATO の新しい事務総長は水曜日、今日、モスクワと西側との改善された関係に向けて機会が生じていると述べ、ロシアに関し一層和解的な態度を示した。

「我々は現在、ウクライナ東部で確立された停戦の機会をみているが、しかし、停戦違反とその停戦は脆い状態になっているということもまたみている」とイェンス・ストルテンベルグは述べた。

事務総長の初日に、55 歳のシュトルテンベルクは、アメリカ、フランス、英国や他の NATO 加盟国、及び非 NATO 加盟国によって行われているイスラム国家の兵士に対する空爆作戦、を歓迎した。彼は、同兵士はイラクとシリアで「恐ろしい残虐行為」を犯したと述べた。

彼は、「強い NATO を求める願望と、ロシアとのよりよいつながりを求めることの間には「いかなる矛盾もない」と考えていると報道陣に語った。同時に彼は、モスクワが国際法を守り、そしてウクライナに対するロシアの諸活動に「明らかな変化」があることを求めた。

さらに、彼は、もしロシアが 3 月にクリミア半島を併合して以来、事実上機能していない NATO-ロシア理事会を復活させようと求めるなら、NATO は「偏見なしに」対応するだろうとも述べた。

ノルウェーの首相を 2 期勤めたシュトルテンベルクは第 13 代事務総長になった。

アナリスト達は、彼の合意形成スタイルは彼の前任者(デンマークのアナス・フォー・ラスムセン)より柔軟なレトリックを意味するだろうと予言した。

「私はより穏健な言語を期待し、そしてオープンな対話を維持しようとすることを期待している」と、クリスチャン・ベルク・ハーブビケン (オスロ平和研究所所長) は述べた。

ドイツのような同盟国にとって、レトリックのコールバックの期待は、シュトルテンベルク支持の 1 つの要素になっていた。

シュトルテンベルクはラスムセンの後継者として 3 月満場一致で選ばれた。もしその選

択がロシア大統領プーチンから暫定的に承認されたとすれば、交代は良かったことになる。プーチンはシュトルテンベルクがノルウェーの中道左派政権を率いていた時、彼と交流があった。

「我々は個人的な関係を含めて非常に良い関係にある」と、プーチンはその時国営 TV に語った。「彼は非常に信頼できる人物だが、彼の新しいポストで、彼と我々の関係がどのように発展するか、我々は見よう。」

伝統的に欧州人が NATO の事務総長になり、他方でアイゼンハウアー将軍（1951 年-52 年間同最高軍司令官を務める）以降、米国の軍人が NATO 軍最高司令官のポストを得る。

シュトルテンベルクはロシアと国境を接する同盟国出身の初の事務総長である。ベルリンの壁が崩壊して以降、モスクワと西側の関係が最も低調になったこの時期に NATO の最高の階級を占めるシベリアンになった。

同時に、NATO はウクライナ、イラク、シリアと北アフリカ、アフガニスタンの不確かな将来、そしてサイバー攻撃から国際航路を襲う海賊にわたる一連の安全保障上の挑戦に直面している。

シュトルテンベルクは、「彼の 3 つの優先事項は NATO を強くすること、パートナー達と共に働き我々の隣接地を安定化させること、そして欧州と北米を固く結びつけることである」と、NATO 本部での記者会見で語った。

彼は、モスクワの意図に苦悩するポーランドのような国家の不安をなくすための強化された空海のパトロール及び地上演習は必要な限り継続すると述べて、NATO はその東の辺境の警戒をゆるめないと約束した。

「我々は我々のコミットメントを支持し、我々の同盟国を守るだろう」とシュトルテンベルクは述べた。

来る 2 月、彼は、NATO 国防相会議はロシアや他の脅威によって脅される同盟国を迅速に増強し得る、新しい高度な機動力の「即応部隊」の規模と編成について合意すべきだと述べた。

エコノミストだったシュトルテンベルクは 2000 年に、41 歳でノルウェーの最も若い首相になった。しかし、彼の労働党が投票で大敗した翌年、1 年 7 カ月で辞職しなければなら

なかった。

彼が将来有望な若い政治家であった冷戦の末期、ソ連のスパイ当局が彼をリクルートしようとした。しかし、彼はノルウェー当局に KGB のその試みを報告したと、ノルウェーの情報当局者が語った。

シュトルテンベルクは、2005 年から 2013 年までの首相としての彼の第二期目の間に軍事費の増加を押し通した。

シュトルテンベルクは長い間信頼できる米国の同盟者だった。彼は 9 月 11 日の攻撃の後に、ジョージ・W.ブッシュ大統領の「テロとの戦い」を承認し、アフガニスタンへノルウェーの部隊を送る決定を支持し、そしてリビアで NATO の空襲に参加するためにノルウェーの部隊を派遣した。

国際舞台では、彼は 2011 年 7 月、第二次世界大戦後、ノルウェーで最悪の残虐行為であった、同国の 77 人を殺害した大量殺人者アンダーズ・ベーリング・ブレイヴィクによる攻撃に厳しい対応をしたことで知られた。ノルウェー人にとって、その事件は「何時間も何日もそして幾夜もショックと、絶望と、怒りとそして涙で覆われる」ものだった。

(略)